

令和元年度 第3回

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会 会議録

- 日時：令和2年2月19日（水）9時30分～10時45分
- 場所：アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）
- 出席委員：松原座長、及川委員、武田委員、肥塚委員、田畑委員、伊庭委員、堀江委員、片岡委員、秦委員、青木委員
- 欠席委員：北中副座長、服部委員、加藤委員、神部委員、阪本委員、松浦委員、深尾委員
- 傍聴者：なし
- 事務局：木村理事、本村調整員、中瀬参事、坂居専門員

【事務局】

定刻になりましたので、只今より令和元年度第3回アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会を開催させていただきます。

まず、配布資料の確認をさせていただきます。

（配布資料の報告）

それでは、次第に入ります前に、当運営懇話会で副座長を務めておりました北中建道副市長におかれましては病氣療養中のところ薬石の効なく、去る2月10日、ご逝去されましたので、ここに謹んでお知らせいたします。

また、本日、御欠席の連絡をいただいております方もおられます。

それでは、次第に従いまして進めてまいりたいと思います。開会にあたりまして、座長の松原先生から御挨拶をいただきます。

【座長】

皆様、おはようございます。今事務局からお話がありましたように運営懇話会で副座長を務めておられた北中副市長の件につきましてはお悔やみ申し上げます。

さて、今年度も残すところあと1か月余りということでございます。年度末で御多忙の時期だと思います。今年度、UDCBKでは、事業プロジェクトを定めて、それらに関連付けるというかたちでアーバンデザインスクール、アーバンデザインセミナー、社会実験準備事業等を行ってきたところでございます。

それから、今日の懇話会の場所を今回初めてUDCBKとさせていただきました。いつもと雰囲気やや違うというか、天井も高く開放感のある場所でございます。このスペースをさらに活用して、取組が発展できますように皆様方からのお知恵をお借りし

たいと思います。委員の皆様にはぜひ忌憚のない活発な議論をお願いします。

【事務局】

ありがとうございました。続きまして次第の2番目の報告についてでございます。こちらからは、司会進行を松原座長にお願いしたいと思います。松原座長よろしくお願ひします。

2. 報告

【座長】

それでは、本日の報告事項は令和元年度事業実施状況等についてでございます。これにつきましては、事務局と及川委員から説明をお願いします。

【事務局】

それでは、資料1のアーバンデザインセンターびわこ・くさつ令和元年度事業実施状況等について、主に事務局から説明させていただきますが、学習事業については当センターのセンター長であります及川委員から説明をさせていただきます。

(事務局から資料の説明)

【及川委員】

それでは、私から4ページ、5ページについて御報告させていただきます。

まず、アーバンデザインスクールですが、予定どおり前期と後期と5回ずつ開催し、前期は『アーバンデザイン講座』の著者5人すべての方に御講演をお願いしており、いずれもアーバンデザインセンターをつくった東京大学の北沢猛先生の教えを受けた方でございます。第5回は台風で中止になりました。後期は『小さな空間から都市をプランニングする』の著者を呼んで講演をいただきました。最近のまちづくりは小さな空間に焦点を当てるということが大きな潮流となっておりますので、それにちなんで著者に御講演をいただきました。5ページの中頃の特別講義については先ほど申し上げた台風で中止となった前田先生の講義を今月29日に開催させていただく予定です。

5ページの後段になりますが、アーバンデザインセミナーは、今年は全11回を企画しておりまして、今のところ10回終了しており、合計150人近くの参加をいただいております。特に食に関することやSDGsに関する事など、ここに掲載しております各テーマで皆さんに講演していただきました。

(事務局から資料の説明)

【座長】

ありがとうございました。

それでは、今回初めての試みということで配布資料の中で産学公民の連携が具体的にどのようにあったのかを丸で囲んでお示しいただいております。そのあたりを念頭において御覧いただければと存じます。

また、産との連携をもう少し促進したらどうかと、市議会から御指摘をいただいているということですので、そのあたりを念頭に置きながら、皆様から御意見あるいは御提案をいただければと思います。

それでは、委員の皆様から今の報告について、御意見を伺います。

【A 委員】

3つあります。

1つ目は、4番のオープンスペース利用状況については、ここに書いてあるとおりのような年代が交流できていたり、そこから成果が出ていたりしている実感があって、産学公民の民の部分हतぶんかなり目的が達成できている気がします。

2つ目です。アーバンデザインスクールで、4回で99名ということなので、だいたい平均したら1回20人ぐらいとなるのでしょうか、そのうち同じ人がだいたい15人ぐらいですね。この人たちが全部5回学んだ後にどうなるのか、学んでいるのは大学生かなと思うのですが、アーバンデザインスクールで専門家から体系的に特にしっかり学びましたという人を今後のまちづくりにどう活かすシステムができているのか、もう3年目なので聞きたいです。

同じことがアーバンデザインセミナーにも言えて、1回15人ぐらいの参加、基本的には学生というのがあって、要はこの人たちは学んだ後にどうなるのですか、学んで終わりですかという質問が3つ目です。

【事務局】

ありがとうございます。アーバンデザインスクールの方ですが、テーマに応じて変わってまいりますが、学生の方とお勤めの方が多い状況になっています。セミナーの方は、どちらかというとも学生の方も来られますが、お勤めもされていない「その他」の区分の方が多かったです。

まずスクールの方ですが、3回以上出席の方には修了証書というものをお渡しさせていただいているのですが、例えばその方々に次のスクールだとか次のセミナーの企画でこういうことをするので御協力いただけますかという投げかけのところまでは今のところさせていただいてはいないところです。3年経過しておりますので、仕組みをしっかりと考えていく必要はあると思っております。

ただ、セミナーに関しては、例えばスクールに参加していた方が、自分たちがやって

いることでこういうふうなことをやってみたいと思うのだけれどどうしたらいいかという御相談をいただいて、実際にセミナーをさせていただく取組は今年度させていただいております。

スクールで参加された方が講師となってセミナーを運営していただくかたちも今年度はありましたが、ただそれもルール作りの的なものがないので、そのあたりのことをしっかりつくっていく必要があるかと思っております。

【B委員】

UDCBKを設立したときから修了証書を3回以上の方にそれぞれ表彰状のように渡していますが、それが何枚かたまった人がクーポンではないけれど、たまった人が専門的にスタッフを応援してくれたらという当初の思いがありました。おっしゃるように具体的なことがまだ決まっておらず、確かに3年経ちましたので、今までどれだけの人がこれまでもらっているのか、システムを作ったほうがいいと思います。

【C委員】

スクールの人から何かやってみようという提案を募集するという出し方も本当はできたらいいのかなとも思います。でも、複数提案があったときに全部するわけにはいかないから区別をしなければならなくなるのですが、変なかたちでやり始めてしまうとうまくいかないこともあるので、慎重にしなければということで、まだ議論をしているところがあります。

スクール修了生が何かやろうとすると、例えば予算を確保しないとできないこともあり、今ここで決めることはできないので、可能性がどこにあるのか次の年度に掛けてこの場で議論できればと思います。

【座長】

今出ているのは、スクールでこの間修了した人がかなり出てきているので、そのような方がここで学んだことを次にどう生かしていくのかということ、次のセミナーにつなげていこうというのも一つの方法で重要だと思うのですが、そういうのも含めてスクールの修了生の方がそこで学んだことを次にどうつなげていくのかというのは課題としてあると思っています。

【A委員】

話を聞いていい話だったというのはいくらでもあって、そこから実践に移して実践が出ないと意味がなくて、法人化できても実践ができていないところに誰もお金は出さないだろうなと思います。

あと、単純に市民の目から見て、社会実験で予算が余っているのを変えていけばいい

のにと普通に思います。

【D委員】

いろんなことを含めて大変なのはよく分かります。いろんな自治体のいろんな取組を見ると、別に予算を伴わなくても自分たちの持ち寄りでいろんなことをしている取組もたくさんあります。予算があればよいですが、予算に制約されなくてもいろんな取組は可能だということもあるので、それも含めて考えていただいたらどうかと思います。

【C委員】

みなさんおっしゃるようにモノがないのに誰も出さないだろうということも確かです。一方で本当に育てていこうと思っているのだということもいろんな角度から出していくのも重要で、別に金額の高さだけでなく姿勢の表れということであってもいいのかなと思います。

あと、社会実験準備事業の話で言うと、包括協定を締結している大学が対象ということになっていて、市民からの提案が出しにくくなっているのかと思います。そこは決まった予算だからなかなか変えられないですが、おっしゃるように別に今年度どうこうということもないですが、将来的に考えられますよねということでもいいと思います。

【E委員】

視点は違うのですが、産の参加という意味で、地域の活性イコール地元企業の発展も含めてということだと思いののですが、人手不足で学生は大手に行って地域には目を向けないというのが現状だと思います。地域の企業と学生のコミュニケーションの場がつかれるように、もっと地元にはたくさん魅力的な企業がございますので、そのような発信ができるような関わりをまた聞かせていただけたらと思います。

【事務局】

今年度、商工会議所の青年部が、三方よしサミットというのを大学と商工会議所と行政を交えて今月開催されまして、行政もかなりの担当部署が参加させていただき意見を交換させていただきました。そこに UDCBK というテーマを出していただいて、産学公民の連携をどうしていったらいいのだろうという話がありました。その時に先ほど委員がおっしゃった話が出ており、企業は学生のアルバイトを求めている一方で学生はアルバイトを求めているけれどリンクすることがないという話を聞きました。単純にここでアルバイト募集をしてくださいということではできませんけれど、何か一ひねりを入れて、地元の企業を知っていただく機会を設けたいと思っております。

また、三方よしサミットのワークショップをされた結果をここでも展示していただけても考えていただいております。展示についての方法等も今後話し合っていきたい

と思っております。三方よしサミットも昨年度から始められ、今回2回目で、私たちも2回目で初めて声を掛けられましたが、お互いにやっている事業を高め合えるようにしていきたいと考えています。

【F 委員】

私も三方よしサミット1回目から参加させていただいて、2回目はとてもよくて、私はブランディングという班に入りましたが、草津市の課長や観光会社の方、写真店の方もおられ、よくなったと思います。

【座長】

三方よしサミットというのは今日の報告の中でありましたか。

【事務局】

資料の一番最後に入れてあります。今月開催したところなので、次の展開自体がどこまでというのはまだ詰めておりません。三方よしサミットをされている方が、打合せのためUDCBKに来られた時にまち調べプレゼンテーションの発表を知られて、参加していただきました。

待つだけでなく私たちも出かけていかなければ、なかなか歩み寄られないところもあるので、一年一年幅は広げておりますが、来年度は職員が出られる体制も頑張っつつくりたいと思います。

【E 委員】

実は私の経験上、地元の養殖の企業に立命館大学の学生が就職されたということも聞いておりますので、学生にもっと地域の企業を知っていただきたいと思います。

【C 委員】

テーマがまちとか都市空間とかうまく設定できれば、堂々とここで知り合ってもらってお互いの魅力が伝わりさえすればいいのではないのでしょうか。合コンではないですが、アーバンデザインのネタがあればいいのでは。

【D 委員】

地域で活動されている企業はいろんな地域の課題や社会課題に関わっているいろんなことをされていますし、そういうこと自体を学生に知ってもらえるような出会いがあったらいいなと思います。

【C 委員】

普通に学生と意見交換をしていると、学生はどうしてもキャリアアップを積むとかいろいろな経験がまだないわけですから、初めにいいところに入れたら安心というようにどうしてもなるわけです。地元にはどんな人たちがいるのか、地元のキャリアパスを自分も歩んでみたいなどという憧れになるような人との出会いがあると違ってくるのかなと思います。地域で働くというだけでなく、そこからどのようなステップアップがあったのかということを提供できると学生も反応するのかなと思います。

【座長】

まちづくりの中にはいろんなアクターがいて、当然地元の企業も重要なアクターの1つであって、実際にはいろいろ関わりたいとか何かやりたいという想いがたくさんあると思います。学生もあまり知る場所がない。そのような情報をつなげていけるよう、アーバンデザインセンターもフェイスブックや壁に張り出すとかの情報発信の役割をさらに積極的に進めていく必要があると思います。

【F 委員】

先ほどのブランディングの話の中で、学生が毎年5千人入って出ていくわけですから、その5千人が草津市を知ってもらえれば、地元が一番ではないかと知ってもらえるのではないかと話も出ていました。私も14代続いている酒屋のことも知らなかったし、ちょうどいいのではと思います。

【事務局】

そこがクラフトビールを作ってみたいということもおっしゃってまして、学生で取り組まれるところがないのかという話もありましたので、今後何か一緒にできればと思っています。

【C 委員】

立命館大学の藤井先生と市民の方が一緒に草津のいいところを探すツアーがありましたが、そういうのに地元の企業に入ってもらってわざと学生に入ってもらうなんか企画してもらってもいいのではないかと思います。そういうのをアーバンデザインスクールからつなげていけないかと思っています。

【座長】

産との連携をどのように進めていくのかという御意見をいただいて、次につながるような議論ができたのではないかなと思います。

ほかどの点でも結構ですが、よろしいですか。

それでは、次の議題にまいります、協議事項の令和2年度実施予定事業について事

務局から説明を願います。

【事務局】

(事務局から資料の説明)

【座長】

ありがとうございます。それでは今の令和2年度実施予定事業の説明を聞いて、これについて何か御意見を頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。

【G 委員】

意見ですが、大学の立場からすると、地方創生推進交付金の枠組でやっていくのであれば、市の方からこういうことがやりたいという働きかけをしていただければ、大学の方も動きやすいかと思います。

【事務局】

各大学から連携集をいただくことがありますので、そちらを見ながらテーマの文章を変えてリンクさせるようなことをさせていただいているのと、包括協定を締結させていただいておりますが、その中で委員に入っていない大学や初めて委員に入っていた大学に御説明にあがらせていただいたりしました。なかなか各大学への御説明は難しいのですが、他部署の審議会でお会いする回数が多いところや、今こういうことを学生と一緒にやりたいとお話をいただいているところに少し働きかけをさせていただけたらと考えております。

【H 委員】

来年度事業を事業領域という面から見ますと、2番、3番はターゲットを含めて分かりやすいのですが、1番、4番、5番はいったい“誰に”、“何を”というのが非常に分かりにくいと思います。具体的に申しますと、地域のまちづくりに取り組んでおられる町内会や団体や学区で展開を考えようとした時に、このUDCBKの取組自体が果たして響いていくのかなと何となく感じてしまいます。情報発信は“誰に”、“何を”届けていこうといった取組でクリアになると思うのですが、オープンスペースはここで考えておられるように「多様な「市民が産学公民が連携して未来の都市のデザインのために人と情報があつまる」」といった点で見ますと、地域でまちづくり活動に取り組んでおられる方々もここの取組自体がオープンスペースとしての利活用も含めて情報の収集先としても展開できなければいけないのだけれども、現実オープンスペースの使われ方はどうなんだろうと考えてしまいます。1番目の取組ですと、それが地域のまちづくり

と具体的に果たして接点があるのか、確かに1号公園はこのアーバンデザインセンターとして取り組んで接点が見えていくのだろうけれども、既存のまちづくりとの接点はどこにあるのかなと感じました。

【事務局】

ありがとうございます。確かにオープンスペースに関しても、産学公民、多様な方になっていきますので、具体的に誰にとにかくかたちで展開しているわけではないのですが、おっしゃるように時間帯を決めてというのはなかなか難しいところですが、今年度は日常のアンケートとは別に期間限定のアンケートもさせていただいておりますので、利用状況を見ながら利用の多い時間に何か展開していきたいと思えます。1番目の事業プロジェクトとも関係しますが、都市と交通プロジェクトにつきましては、私自身も近隣の町内に出向いて今どのようなことが行われているのかということもできておりませんので、そのあたりも動きながら盛り込めるようにして、来年度の報告のときにはそのあたりが見えるようにしていければと思います。

【H 委員】

ドメインの設定が大事だと思います。そこを間違えたら違う方向に進みかねないので、注意していただければと思います。

【D 委員】

社会実験準備事業の資料 B-2 ですが、かなり具体的に書き込みがされていますが、答えられにくいかもしれませんが、念頭にどこかの大学を既にお持ちで書いておられるのか、あるいは概要は概要なので例示的と受け取っても構わないのか、柔軟な感じで大学の持つておられる考えや資源ですり合わせが可能なのか教えていただければと思います。

【事務局】

先ほども言いましたように、テーマを設定させていただく文言一つずつになりますが、各大学の連携事例集を見せていただいて、一つの大学だけでなく他大学でもこのような文言を入れておくと、もしかしていけるかなという手法を取らせていただいております。具体的にこのテーマをこの大学にお願いできたらという絞り込みまではさせていただいていないですが、幅広く語句で採用させていただいているかたちにはなっています。

提案方式のほうも一度考えてみたのですが、提案になると例えばすべて出てきたときに審査をどうするのかなど課題がありますので、とりあえず早い時期に出すことと今年度 A・B のかたちに変えたので、とりあえずもう1年 A・B のかたちで行ってみて、今年度1年かけて提案方式にしたときの審査基準をまとめていければと思います。また、

今、包括協定を締結している大学だけになっていますが、例えばそれ以外の手法も可能なのかも考えていくことも大事なのかなと思っています。

【D 委員】

令和2年度はこれでいいのですが、令和3年度に向けて市と協定している大学を活かしたかたちで一緒になって進めていただいたほうが質が上がるのかなと思います。

【C 委員】

懇話会の日程調整だけでもが大変なので、例えば包括協定の大学の皆さんだけ集まって意見交換するだとかできないでしょうか。つまりみんな集めるのではなくてもいいのではないのでしょうか。それも難しいようでしたそんな簡単にはうまくいかないと思います。

【D 委員】

それぞれの大学の方と可能な限りそれぞれ話をして、考えてみてもいいよという踏み込み的なことがどこまでできるのか、そういうふうにもっていかないとなかなか実際にはしんどいのかなと思っているという意見です。

【C 委員】

スタッフも結構一生懸命動いている中で、どこまで効果を出せるのか、懇話会のタイミングだけで難しかったら、スピンオフでどういうふうにアイデアを集めていこうかというミーティングをウェブでもいいのでやるべきではないかと思います。

【座長】

今言われたのは関係者、応募する側から言うと大学なのですが、ウェブでもいいのでいろんなかたちで意見を聞くような場を設けるもの一つのかたちかなと思います。そこからいくつかネタを拾ってきてここに反映させる。あとは今年はこのかたちで募集テーマを提案されていますので、このかたちでやっていくことになると思いますが、実際に大学の方からそのものズバリではないのですが、関係するようなことでこれはどうですかという問い合わせがあれば、少しフレキシブルに対応すると言われているのではないかなと思います。

【事務局】

はい。

【C 委員】

一方で、アーバンデザインセンターとしてこうやってきて、積みあがってきているのかというのも必ず問われてくることですよ。いろんなことが毎年出てきて、それはそれでまた聞かれるので、一回やってきたものを限定でさらにもう一回やってみるとか、絞る時は絞るとか両側で検討していく必要があるんだろうなと思います。

【I 委員】

産学公民のいろんな分野で情報発信をされていると思いますが、大学でもいろんな部署があってどの部署に発信してされているのか、産業の関係もどの部署に情報発信をしたらいいのかというのがあると思いますが、それぞれバラバラに情報発信をしていると思います。情報発信について、私たちも事業をやろうとしたら、子どもを対象にするのか、大人を対象にするのか、高齢者を対象にするのかなど具体的に PR しています。ここのアーバンデザインでもいろんなテーマがあるので、対象をもう少し絞って一緒に情報発信ができればと思います。共通話題で話し合えたらと思います。いろんなことをやってみたいという気持ちも分からないでもないのですが、テーマが大きすぎるような気がします。

【事務局】

先ほど御意見いただきましたように、誰がという範囲が見えにくくなっているということですので、柱で分けるような整理が必要なのかなと思います。今年度は学生だけとか住民だけというのは難しいですが、一つの事業の中での区切りを実際やってみて、例えばこの年代にはヒットしたけれどもこの年代にはヒットしなかったとかいうのも考えていくことができればと思います。

【I 委員】

地域住民への情報発信をもう少し、まちづくり協議会だけでも市内 14 学区あるので、他のところに対しても情報発信していただいて、できるだけ何らかのかたちで関心を持ってもらえるようにしてもらえればと思います。

【事務局】

玉川学区の中に UD CBK はあるので、一番情報のやり取りが多いのですが、最近、他の学区の方がここを使われるということもありますので、来年度私たちも出て行って顔をつなぐということはさせていただきたいと思います。

【座長】

他にございませんでしょうか。

令和 2 年度の事業について委員の皆様から様々な御意見をいただきました。事務局の

方で引き取っていただいて反映できるようにしていただければと思います。

それでは、ほかに御意見がないようですので、協議事項はこれで終了とさせていただきます。と思います。

委員の皆様方には、議事の進行に御協力いただきありがとうございました。

では、事務局お願いします。

【事務局】

委員の皆様、本日は大変お忙しい中お集まりいただきまして、どうもありがとうございました。

本日いただきました御意見を今後の UDCBK の事業に反映していきたいと思いますので、引き続きお力添えいただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、本日の懇話会をこれで終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。